



とらいあんどぐる



2023 年 10 月

一音会ミュージックスクール発行

「ゆっくり大きく」

約 1 年前、「とらいあんどぐる」で、ピアノという楽器の特殊性を書いたことがありました。「ピアノの効能」というタイトルでした。

この号は、のちに非常に大きな反響をいただいた号になりました。

ざっくり書いたせいで、後からいろいろなご質問を受けました。

もっと丁寧に書くべきであったと反省もしました。

私は、こむずかしい話を簡略化し

ぎてしまう悪いクセがあります。

確かに、これから頭脳を作っていく年齢の子どもを持つご家族には、知能に深くかかわる「並列処理」とはいったい何なのか、気になるところだと思います。

前の号でテーマにした「おぼえ弾き」とからめながら、少し説明を加えてみたいと思います。

「並列処理」とは、複数の情報処理を同時におこなうことです。

実は、ここで一番重要なキーワードは、“同時に”です。

1つ1つの処理は浅いものでもかまわないのです。それが複数層に折り重なっていることが重要です。

折り重なり方も、一様ではなく複雑にからみあっているほど、効能を期待できます。

ピアノを弾く時には、いくつもの作業を“同時に”おこなわなくてはなりません。

まず、弾きながら、目では楽譜を読み続けます。弾くのと楽譜を読むのは“同時”です。

だって想像してみてください。楽譜を読んで、その部分を弾いて、また手を止めて次のところを読んで、読み終わったらまた弾いて・・・という繰り返しでは、音楽が止まってばかりです。



読む作業をしながらも、休まず指を動かさなくてはなりませんし、弾いている間も、休まず読んでいなければ、弾き続けられません。

しかも、楽譜から読み取る情報は、多種にわたります。

音の高さ、音の長さ、指使い、リズムパターン、強弱、テンポ、アーティキュレーション……。たくさんの情報を、“同時に”読み取ります。

そして、複数の音が“同時に”動きます。

右手と左手を“同時に”というだけでなく、それぞれに5本の指があり、“同時に”別の動きをします。

読み取った情報は、すぐに手に伝えなくてはなりません。

読み取るべき情報が多いので、楽譜は絶対に見ていなくてはなりません。

楽譜を見ながら、“同時に”指を正しく動かすことが必要です。

書いているだけで疲れました。

情報処理が多すぎるのです。

要は、手元を見ないで弾ける状態でなくてはならない、ということです。

そして、今弾いているところの音が正しいか、耳で確認しながら、実際にはちょっと先を読んでいます。音楽はどんどん進みますから、手に指令をくだす前に情報を読み取り終わっていないと、間に合いません。

このように、あらゆる“同時に”が、複雑に折り重なっているのです。

「並列処理」が必要なゆえんです。



では、ピアノを習い、ピアノを練習していれば、「並列処理」をマスターできるのか？というと、実はそう簡単な話でもないのです。

ピアノをはじめてしばらくの間は曲が簡単です。

曲をきいて、おぼえられるほど、曲は短く、そして簡単です。

その時代は、「並列処理」をおこなわないまま、ピアノを弾くことができってしまうのです。

どのように弾くかというと、音をおぼえた後、手を見て弾くのです。

たとえば、「キラキラ星」をイメージしてみてください。

まず、「キラキラ星」の「ドドソララソ～」をおぼえます。そして、手を鍵盤に置き、鍵盤を見ながら「ドドソララソ～」の通りに、指を動かすのです。

これは「並列処理」ではありません。おぼえた音の通りに指を動かす、

ただの“作業”です。でも、上手にピアノを弾いているように見えます。

このような弾き方を、「おぼえ弾き」と呼びます。

先号でも書いた通り、おぼえて、その記憶をたよりに弾く、そのままです。

楽譜を読み取りつつ、進行形でその情報を手に伝えて弾くのとは大きく違います。

ただし、楽譜を読んで練習して、その結果、暗譜で（楽譜を見ないで）弾くのは「おぼえ弾き」とはいいません。「おぼえ弾き」は、きいておぼえて弾けるようにするやり方です。



「おぼえ弾き」のやっかいなところは、初歩の段階で、とても上手に見えることです。

そして、さらにやっかいなことに、弾けるようになるまでがはやく、あたかも上達がはやいかのように見えてしまうのです。曲が簡単なうちは、読めるようにするよりも、おぼえさせる方が簡単で、はやいからです。

ただ、前号でもお話ししましたが「おぼえ弾き」には限界があります。「おぼえ弾き」は、おぼえられる曲は弾けますが、おぼえられない曲は弾けません。当然です。

おぼえる力には限界があります。でも、読む力には限界がありません。

分かりやすくするために、また国語の話をしてします。

短い文章、それも簡単な日本語であれば、きいておぼえることができます。

きいておぼえて朗読できます。

文字を読んでいませんが、あたかも文字を読んでいるかのように！

しかし、何ページにもわたる文章をおぼえて朗読するのは、たいへんです。普通はおぼえられません。

でも読んで良いとしたら、どうでしょう？

何ページあろうとも、読み続けることができます。本まるごと1冊でも大丈夫です。難しい単語や難しい文章が含まれていても大丈夫です。そこに書いてあることを読むだけですから、限界はありません。

曲も同じです。

おぼえ弾きで「キラキラ星」は弾けます。でも「子犬のワルツ」を「おぼえ弾き」で弾くことは通常は無理です。

ピアノの曲は、徐々に長くなります。

そして複雑になります。



長くなり複雑になり、ついにはおぼえられなくなります。

「おぼえ弾き」で進んできた子は、ここでつまづくのです。

統計では、小学校3～4年生くらいで、ピアノをやめる子が多いそうです。それは、まさに曲が長く難しくなって、おぼえられなくなったタイミングです。

こう考えてみると、ピアノも国語もよく似ています。

どうやって課題をこなしているか、子どもの頭の中は目に見えません。

「できる」ように見えていたのに、課題が進んで、それまでの方略が通用しなくなった時、はじめて「できていなかった」ことが判明します。

文章の内容が難しくなって、推測では答えられなくなった時、読解ができていなかったことが判明するように、曲が難しくなって、おぼえられなくなった時、「並列処理」をマスターできていなかったことが判明するのです。

繰り返しますが、「おぼえ弾き」は「並列処理」ではありません。ただの「作業」です。



ピアノの効能は、簡単にいえば、頭が良くなる、ということですが、「おぼえ弾き」は、ピアノの効能のもっとも価値ある部分を得られないので、その意味でも良くないと思っています。

昨年、「ピアノの効能」の話を見せていただいた直後、実は何人もの方にこうきかれました。

「ピアノを習っていれば大丈夫なんですよね？」

私は、深く考えずに「はい！」と行って、にこにこしていました。

でも、数か月たって、「あれ？」と思うようになりました。

そもそも、質問ではありません。確認でした。

もっと正確に、もっと誠実に、お答えしなくてはいけないことに気がつき、あおざめました。そして、先号と今号を使って、補足させていただいているのです。

ピアノを習っていれば、もれなくピ

アノの効能を得られるというわけでは
ありません。ピアノを習っていても、
「並列処理」をマスターしているとは
かぎらないからです。

この点は、注意が必要です。

逆に、ピアノ以外でも「並列処理」を
課すようなものがあれば、じゅうぶん
に効能があるでしょう。

でも私はピアノ以上に、情報処理が
多種多層になる課題を知りません。

世の中、SDGs という言葉が流行りて
す。「持続可能な開発目標」という意味
だそうです。

おそらく「持続可能な」というところが
が、大切なのでしょう。

今すぐ、結果をあげることよりも、よ
り長期的な視点で、持続可能な取り組
みをおこなうことに関心が向くのは、
とても良いことだと思います。

人生は長いのです。

子どもの未来は、膨大な時間と大き
な可能性にあふれています。

ゆっくり大きくなれば良いのではな
いでしょうか。

今、急いで結果を出す必要はないと
思うのです。

これはピアノに限った話ではありま
せん。

いつか使えなくなる力にたよるのは
損なやり方です。

今すぐできるようになることよりも、
長期にわたって持続可能な力をはぐく
んでほしいと思います。

ゆっくり、そして大きく、です。

(江口 彩子)



◆「音楽の集い」を開催します

11月3日（祝）は、今年も「音楽の集い」の日です。「音楽の集い」とは、おとなの方の発表会です。

ここ数年、「音楽の集い」は、新型コロナに影響され、年ごとに開催の形を変えてきました。昨年は、ようやく有観客で開催することができました。

今年も、有観客で開催ができることを、たいへんうれしく思います。ただ、皆さま、ご存じのように、コロナにかぎらず感染症が流行っています。有観客の形をとりながらも、換気や消毒等、感染のリスクを下げる努力をおこなった上での開催としたいと考えております。

ご出演の皆さま、ご来場の皆さまには、ご協力をお願いすることになりますが、どうかご理解をよろしくお願いいたします。

日程： 2023年11月3日（祝）

時間： 12：30開場 13：00開演

場所： 「ひびきホール」

ひびきホール

★西武池袋線 東長崎駅

南口より 徒歩5分

★ビルの1階はスーパー

「まいばすけっと」です



入場は無料です。ぜひ多くの方に足をお運びいただきたいと思います。

「音楽の集い」は、ピアノの発表だけでなく、歌でご参加の方も多くいらっしゃいます。ご家族でのアンサンブルもあります。アットホームな雰囲気の優しい会です。

楽器や歌のレッスンを受けることをお考えになっていらっしゃるおとなの方は、まず観にいらしてください。良いきっかけになるでしょう。

近年、お子さまがピアノの練習をしている姿に触発されて、ご家族の方がピアノをおはじめるケースが増えています。お子さまがレッスンを受けている間に、つきそいのご家族の方がレッスンを受けられるよう、レッスンをお組みすることもできます。初心者の方も大歓迎です。

「ピアノの効能」は、子どもだけの話ではありません。ピアニストに認知症が極端に少なく、総じて長寿であることは、よく知られている事実です。

昨年と同様、「ハイブリッド方式」です。「ハイブリッド方式」とは、有観客の形をとりながらも、動画配信をおこなう形です。

動画をご提供する目的の1つは、会場の密を回避することですが、お忙しいご家族や遠くにお住まいのご親戚、お友だちに、晴れの姿を披露する、ということもあります。

動画は限定公開です。無関係の方に見られる心配はありませんが、そのかわりご視聴にはお申し込みが必要です。ご視聴をご希望の方は、「ショパンはうす」受付もしくは一音会本部まで、お申し込みください。ご視聴は無料ですが、一音会の関係者の方にかざらせていただいています。



◆「ピアノ・トライ」にご参加ください

例年、夏の暑さがやわらぐと、「ピアノ・トライ」準備期間になります。

今年も「ピアノ・トライ」をおこないます。「ピアノ・トライ」とは、エチュードやバッハの作品といった、基礎力やテクニックにごまかしがきかない曲を課題曲とし、普段のレッスンの先生ではない、ベテラン先生が、お一人お一人の弾き方や表現や練習に問題がないか拝見し、さらに上手になっていただくためのアドバイスをお出しするものです。

ピアノ発表会の目的は、大きな舞台で普段の力を出すこと、です。演奏について、普段の先生以外の先生がアドバイスをさせていただくことはありません。

「ピアノ・トライ」の目的は、普段の練習を見直し、さらに上手になっていただくこと、です。

「ピアノ・トライ」も「ハイブリッド方式」です。「対面式トライ」と「動画式トライ」の両方をおこないます。

お知らせする内容が多いため、別紙をご用意し、この「とらいあんぐる」にはさんでいます。お申し込み方法や日程や期日等、すべての情報をまとめて掲載しています。

不要なルールはそぎ落とし、できるだけ皆さまに分かりやすい形にしたつもりですが、なお分かりにくい点も残っているかもしれません。ご不明な点は、お気軽に本部にお問い合わせください。演奏を聴かせていただくのを、今から楽しみにしています。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：ichionkai.piano@gmail.com 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。